

ラクロス部杉浦さんが日本代表に選出

文学部英語英米文化学科2年の杉浦巴さんが、ラクロス2007年度21歳以下女子日本代表選手に選出されました。昨年度の長江泉名さんに続き、金城ラクロス部より2年連続の選出となります。

6月1日～4日にオーストラリアで行われた大会では、オーストラリア・アメリカ・ニュージーランド・日本の4カ国6チーム中、第3位と大健闘しました。帰国後、杉浦さんは「体も大きく技術も高い外国人選手と戦って、自分の力が世界に通用することがわかり良い経験となりました」と報告してくれました。



壮行会にて



オーストラリア遠征にて(右から2番目)

日本と中国の架け橋に

現代文化学部国際社会学科4年の野田尚子さんが、昨年度の内閣府「日本・中国青年親善交流事業」青年団のメンバーに選ばれ、中国各都市を訪問しました。

入学当初からの目標であった中国での親善活動を見事実現した野田さん。「日本代表として派遣されている以上、私た



ち代表団が現地の方にとって100%の日本人像になってしまいますので、立ち居振る舞いや発言には特に注意しました。短い期間でしたが、人対人の交流によって、両国が互いに持っている偏見や誤解を取り払うことができました。友人もたくさんでき、未来の友好を誓い合いました。」と中国での活動を振り返ります。

この4月からは名古屋観光コンベンションビューローの「キラッ都なごやメイツ」にも選ばれ、得意の中国語を活かして名古屋のコンベンション誘致・観光キャンペーン・各種イベント・国際交流など幅広い分野で名古屋を世界にアピールする活動に携わっています。

雑誌 GRACE に紹介



『GRACE(グレース)』は「優雅な女性」になるためのハイクオリティマガジンです。6月7日発売の7月号に金城学院中学校・高等学校が記事として紹介されていますので、ぜひお読みください。

「みどり野会」より

「みどり野会」は金城学院の同窓会です。
1889年に創立された学院の、約77,000人の
卒業生が集う会です。

「みどり野会」という名前は、大正9年(1920年)に、当時の聖書(文語訳聖書)の詩篇第23篇

『エホバはわが牧者なり われ乏しきことあらし
エホバは我をみどりの野にふさせ
いこひの水濱にともなひたまふ』

から名付けられました。神さまによってこの学院に集められた私たちが、卒業後再び母校に集まり、いこひの時を過ごす、という意味で「みどり野会」はいつも皆さんとともにあるのです。

【編集後記】

本号の特集は「マータイ女史来校」である。国際的にマザー・テレサに匹敵する評価を受けている女史の「生き方」に直接触れたことは、中高生の今後にとって模範すべきこととなつたに違いない。

本欄でも以前より「生き方を学ぶ」について触れてきている。少し前、日経新聞の「ネットと文明」という記事が目にとまった。近年、「時間の感覚」が変わりつつあるらしい。今や情報はインターネットで直ちに手に入るが、その一方、人は我慢を

2007年度 聖句標語

幸いなのは神の言葉を聞き、それを守る人である。

ルカによる福音書 第11章28節

「神の言葉を聞く」ということは、物事に対する価値基準や判断基準を自己の内的な感覚・感情に求めない冷静さ、謙遜な態度が求められる。また「それを守る」ために、与えられた状況を受け止め実行してゆく強さが求められる。

この聖書の箇所は同じルカによる福音書第1章におけるマリアの姿に結びつけられている。それはマリアの幸いも、主イエ

スをその胎に宿したことそのものよりも、その選びの出来事をマリアが信仰と決意をもって受け止めていったことに重きが置かれているからである。

聖書の御言葉をその身に受け止め、胎内に宿す幸いにより、真の女性としての優しさと実行力を、金城学院に連なる一人ひとりが兼ね備えることができるよう励みたい。

(高校宗教主事 塚本 信)

忘れつつある。時間を浮かせ、人生を豊かにするはずの技術が、逆に人の体内時計を早め、イライラを募らせるという皮肉な逆説が起きている、と記者は指摘する。

このような変化は、幸せな変化なのか。無意識だが、いつの間にかツールに使われ、主従逆転していないだろうか。それこそ今一度、ゆっくり時間を持って見つめ直さねば、と思わされる。

あくまで自分が主であるために。

本誌「with Dignity」は、金城学院のホームページ(<http://www.kinjo-gakuin.jp/>)でもご覧いただけます。ご意見、ご感想をお寄せください。

(また、現在お送りしております方で、住所変更や購読中止を希望される方もホームページからご連絡ください。)

with Dignity = 金城女学校・第6代校長 エラ・ヒューストンが、外出する生徒に「金城の生徒として "You must have dignity" と話しかけたことに由来しています。"dignity" は、尊厳・品位の意。